

## 目標

- 作品の構成や展開、表現の特徴とくちょうについて自分の考えをもつ。
- 語句の意味や擬声語ぎせい・擬態語ぎたいに注意し、その工夫くふうや効果を理解する。

## オツベルと象

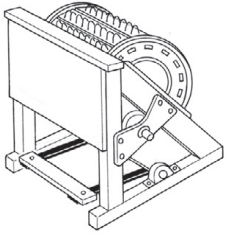
宮沢賢治みやざわけんじ

……ある牛飼いが物語る。

## 第一日曜

オツベルとききたらたいしたもんだ。  
 稲いなこぎ機械きかいの六台も据すえつ

- ・ A4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。



稲こぎ機械

稲  
据  
姓

おおそろしない ひどく大きな。

意  
物語る

けて、のんのんのんのんと、お  
おそろしない音をたててやっている。  
十六人の百姓ひやくしやうどもが、顔をまるつき  
り真っ赤にして足で踏ふんで機械を回し、  
小山のように積まれた稲をかたっぱしか  
らこいていく。わらはどんどん後ろの方  
へ投げられて、また新しい山になる。そ  
こらは、もみやわらから立った細かなち



- ・ A4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

りで、変にぼうつと黄色になり、まるで砂漠さばくの煙けむりのようだ。

その薄暗うすい仕事場を、オツベルは、大きな琥珀こはくのパイプをくわえ、吹き殻がらをわらに落とさないよう、目を細くして気をつけながら、両手を背中に組み合わせて、ぶらぶら行ったり来たりする。

小屋はずいぶん頑丈がんじょうで、学校がっこうぐらいもあるのだが、なにせ新式稲こき機械が、六台もそろって回ってるから、のんのんのんのんふるうのだ。中に入るとそのために、すっかり腹がすくほどだ。そして実際オツベルは、そいつで上手に腹を減らし、昼飯時には、六寸ぐらいのビフテキだの、雑巾ぞうきんほどあるオムレツの、ほくほくしたのを食べるのだ。

とにかく、そうして、のんのんのんやっていた。

そしたらそこへどういわけか、その、白象がやってきた。白

- A4の用紙で印刷してください。
- 点線で切ると実際の大きさになります。

い象だぜ、ペンキを塗ぬったのでないぜ。どういうわけで来たかって？ そいつは象のことだから、たぶんぶらっと森を出て、ただなにとなく来たのだろう。

そいつが小屋の入りに、ゆっくり顔を出した時、百姓どもはぎよっとした。なぜぎよっとした？ よくきくねえ、何をしだすか知れないじゃないか。かかり合っては大変だから、どいつも皆みな、

漠 煙 薄 丈 巾 皆

琥珀 大昔に樹脂じゆしが地中に埋うまって化石になったもの。透明とうめいまたは半透明の黄色をしていて、装飾品そつしやくに用いられる。

吹き殻 吸い殻。／六寸 一寸は、約三センチメートル。

文 まるで……ようだ

意 なにせ

対 新式

文 とにかく

- A4の用紙で印刷してください。
- 点線で切ると実際の大きさになります。

一生懸命<sup>けんめい</sup>、自分の稲をこいていた。

ところがその時オツベルは、並んだ機械の後ろの方で、ポケットに手を入れながら、ちらっと鋭<sup>すど</sup>く象を見た。それからすばやく下を向き、なんでもないといいふうで、今までどおり行ったり来たりしていたもんだ。

すると今度は白象が、片足床に上げたのだ。百姓どもはぎよつとした。それでも仕事が忙<sup>いそが</sup>しいし、かかり合ってはひどいから、そつちを見ずに、やっぱり稲をこいていた。

オツベルは奥<sup>おく</sup>の薄暗い所で両手をポケットから出して、も一度ちらっと象を見た。それからいかにも退屈<sup>たいくつ</sup>そうに、わざと大きなあくびをして、両手を頭の後ろに組んで、行ったり来たりやっていた。ところが象が威勢<sup>いせい</sup>よく、前足二つ突き出して、小屋に上

- A4の用紙で印刷してください。
- 点線で切ると実際の大きさになります。

文

ところが

意

いかにも

類

のんき

## 忙 屈

がってこようとする。百姓どもはぎくつとし、オツベルも少しぎよつとして、大きな琥珀のパイプから、ふつと煙を吐き出した。それでもやっぱり知らないふうで、ゆっくりそこらを歩いてきた。そして機械の前のところを、のんきに歩き始めたのだ。

ところがなにせ、機械はひどく回っていて、もみは夕立かあられのように、パチパチ象に当たるのだ。象はいかにもうるさいらしく、小さなその目を細めていたが、またよく見ると、確かに少し笑っていた。

- ・ A4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。